

## 宝の海 有明海をいつまでも

『石けん愛用運動にとりくんで』

大浦漁業協同組合婦人部  
部長 平古場 公子

### 1. 地域と漁業の概要

私達の住む太良町は、佐賀県の西南端、長崎県との県境にあり、霊峰多良岳を頂点として有明海に向かってほぼ扇状に広がっており、特に私達の大浦漁協は、最も長崎県側にあります。また、風光明媚で温暖な気候と、目の前の有明海でとれる竹崎カニを観光資源とした旅館には、年間を通して観光客がおとずれます。

組合員数430名（正組合員数366名、准組合員数64名）で、冬場は潜水器漁業、夏場は刺網、カゴ漁業等の漁船漁業を269経営体、海苔養殖は13経営体で行っております。特に、潜水器漁法によるタイラギ漁は日本一の技術を誇っています。

### 2. 婦人部の組織と活動状況

婦人部は昭和39年に設立され、現在の部員数は380名で、役員は部長1名、副部長2名、監事2名、班長16名で構成されております。

主な活動は、貯蓄推進、石けんを使う運動を行っています。各地区の婦人部班長で部員の家庭を訪問、積立貯金の集金をしながら情報交換にも役立てております。

### 3. 活動課題選定の理由

30年前、1日10円の箱貯金から始めた積立貯金も、現在は毎月5千円、1万円と皆思い思いの金額を積立しています。

思いうかべれば、この1日10円の箱貯金を始めた30年前といえば、私たちの生産と生活の場である有明海は、大浦漁民にとって黄金の色に輝く宝の海でした。

有明海全域にタイラギが立ち、10月から翌年4月までの期間中、毎日1隻で200kgから300kgの貝柱が水揚げされ、当時、まだ若くて欲など全くなかった私には、うらめしく、明日はしけで休みになりますようにと、願いをこめて床についたものでした。

夏場も、カニ、エビ、魚がたくさんとれ、浜も活気に満ちていましたが、その有明海も今では汚染が進み、昭和62年にはグミやヒトデが異常繁殖、貝類は死滅し、潜水器漁業でこれらをとって駆除するという年もありました。

資源が減少し、漁業だけでは生活が苦しく、今では夫や若者達は潜水の技術を生かし、港湾潜水工事に切り替え、北は北海道、南は沖縄県まで全国各地に出稼ぎに行くようになりました。現在、大浦の組合で500人以上の男性が出稼ぎに出ています。

近代化された潜水設備の中とはいえ、1年通しての海底の作業で生と死はいつも紙一重です。平成4年3月8日、愛媛県松山市の沖合水深20mの海底でサメに襲われ、帰らぬ人となられた原田さんをはじめ、働き盛りの若者達が潜水工事で亡くなるという悲しい知

らせを何度聞いたことでしょうか。

私の家族も夫と2人の息子が出稼ぎに行っています。たまの休みに帰ってくると、親子口をそろえていいます。「この有明海に前のようにタイラギや魚がとれたら、遠い所まで行かんでいいのに。」と、久しぶりの一家だんらんで語り合う話しの中には、ひしひしと出稼ぎのつらさがうかがえます。

有明海が前のような宝の海にもどってくれたら、家族と一緒に暮らせるのに、なんとかならないものだろうか、いつも考えていました。

私たち婦人部でできる事は何でもやってみよう、男達は不自由な生活をしながら、家族を養うために一生懸命頑張っているのに、とにかく行動に移さなければと、部員によびかけ、海の汚れの60%は家庭から出る生活排水だといわれていることから、石けんを使う運動をもっと強力に行うことにしました。

#### 4. 実戦活動状況及び成果

私達の地区では、昭和55年から毎週土曜日の一斉休漁日を利用して、婦人部で毎月1回、海岸清掃を行っています。夏は魚釣りやイカゴすくい等レジャーで訪れる人が多く、その人たちが置いて帰るゴミで海岸も汚れ、毎週掃除しなければならない時もありますが、海を守るためだといって皆心よく参加してくれます。

昭和60年から毎年2個、平成元年からは3個ずつ、わかしお粉石けんを全部員に配布しています。しかし、水に溶けにくい、洗濯物に白い粉がつく等、評判が悪く、石けん使用率は50%にも満たない状態でした。

そこで、部員の意見を知るために、平成4年度から全部員を対象に毎年アンケート調査を行っています。最初の調査では、石けんのみを使用していますか？という問いには、洗濯用石けんでは10%、台所用ではわずか1%にすぎませんでした。

そこでアンケートのすぐあとに粉石けんの配布を年6個に増やし、毎日使用する石けんのことをもっとよく知ってもらおうと、講師の先生を招いて勉強会を開き、合成洗剤と石けんの違い、合成洗剤が人体や環境に及ぼす影響、石けんの方が合成洗剤よりもはるかに洗浄力に優れていることなど、お話ししていただきました。

また、平成5年2月と8月に2班に分かれてバスを貸切り、北九州市の石けん工場へ視察に行き、医療用ガーゼや食器用フキン、マスクには、発ガン性があるからと使用が禁止されている蛍光剤が、洗濯物を白く見せるために、合成洗剤には多く含まれているが、石けんには含まれていないと、実際にブラックライトを使って見せていただき、帰る時には部員たちの石けんに対する認識もたかまってきたようでした。

しかし、私達漁業者だけでは、上流から流れる水を止めることはできません。そこで、地域婦人会の会議にも積極的に出席させていただき、石けんの良さをアピール、私達の健康、生活、環境を守るためにも、是非石けんを使用してくださいとお願いしております。

アンケート調査で、あなたはどのようにして石けんを使用しないのですか？という問いには、表のように毎回においが悪い、水に溶けにくい、石けんカスが残る等の回答が多くありました。この問題に対して、私達は石けん配布のとき、上手な洗濯の仕方を書いたチラシと石けんネットと一緒に配り対応しました。

このように、婦人部で石けんの環境へのやさしさを勉強し、婦人部全員が使用するようになったことから、平成5年には太良町役場にうかがい、町長さんに要望書を提出、町の公共施設をはじめ、町内全域で石けんを使用させていただきようお願いし、学校や病院など町内8つの公共施設へ手洗い用の固形石けん1,000個、約10万円相当を活動資金の中から贈りました。その後、町議会への一般質問にも取り上げていただき、町民全員の使用実現に向けて頑張っています。

しかし、行政だけに頼ってはいけないと、平成5年から太良町ふるさと祭りでは、役員自らが出向き、石けん使用にご協力くださいと、ごらんのようなチラシ1,300枚と粉石けんの試供品を配り、併せて石けんの販売も行っています。子供達が学校で使っている石けんだといって、おこづかいの100円で固形石けんを買ってくれたり、昨年初めて買って使ってみたら、子供のアトピーがなおって助かりましたと言って喜んでもらったり、わずか2日間ではありますが、毎年、回を重ねるごとに売上げも伸び、私達の気持ちも、町民の方達にも少しずつ伝わっているものと信じています。

また、家庭用の廃油が海へ流れるのを防ぐため、各家庭から使用済みの天ぷら油を集めて固形石けんを作り、婦人部総会の記念品として配りました。汚れがよく落ちると評判が良かったので、その後は、在庫が少なくなると班長が集まって作り、部員達に使用してもらっています。

平成8年3月、かねてから県と町長さんをお願いしていました、廃油で粉石けんを作るミニプラントを太良町で購入していただきました。

最初は漁協婦人部で使用してくださいと、依頼を受けましたので、さっそく機械を借りて37kgの粉石けんを作りました。ひどい汚れも真っ白に落ちると評判が良く、作るのが間に合わなかったりと、嬉しい悲鳴をあげています。また、使用促進の広報として太良町だよりに大きく載せていただき、PRに努めています。

このような私達婦人部の実践活動により、表に示しますように、平成4年のアンケート調査を始める前までは、50%にも満たなかった粉石けん使用率も、4年度以降は年々増加し、7年度には約3倍の148%になりました。また、婦人部取扱い石けんの種類別使用状況をみますと、どの石けんもアンケート調査前に比べ、粉石けん3倍、固形石けん8倍、台所用石けん11倍、石けんシャンプー8倍、歯みがき粉11倍と売上げが急増しています。

## 5. 波及効果

自然を、そして、有明海を仕事場として存在する漁業の環境悪化を危惧した私達漁協婦人部は、環境保全を目指して4年余り、講習会や会合を通じて、石けんの重要性を認識し、各種のイベントを通じて地域住民へ石けん愛用のお願い等、表のような普及活動に積極的に取り組んできました。

これらの一連の漁場保全への活動の表れか、岸壁に以前はついていなかった貝がたくさんつき、港の中では小さな魚が群れをなして泳いでいるのを見たときには、嬉しくて皆を大声で呼び見てもらいました。海を守りたいという一心で、ただ思いつくままに行っている活動では、急には目に見える結果が出ないため、今のままの活動の仕方でのうらうかと、落ちこんでいた時に見た光景なので、目頭に熱いものを感じました。

また、7年度は潜水器漁業もタイラギが思いのほか豊漁で、数量で200トン、金額にして4億円という水揚げがあり、浜にも活気が出て嬉しいかぎりでした。

海や川を守ろうと、育友会母の会や、地域婦人会へも漁協婦人部員がお世話に行き、廃油石けんを作り、町内全戸へ配布する等、石けん使用の輪は少しずつ広まってきています。

また、以前のあまり積極的でなかった婦人部活動から見ると、廃油を持ちより、石けんを作りながら世間話しに花が咲き、子育てや悩み事の相談等もあつたりと、楽しい時間を過ごせるので、石けん作りに参加する部員も増え、婦人部の輪も広がり、今では若い奥さん達も積極的に町民体育大会や福祉運動会等、催しものがあるとアトラクション等に参加してくれるようになりました。

また、石けん作りで知りあつた仲間で、カラオケや踊り、お花のけいこにも行っております。婦人部員の人は皆が親子、兄弟みたいな気持ちで付き合いができるとの話しは、町外へも広まり、私達の地区では花嫁さんの来てがないというような心配は全くなく、県外からのお嫁さんも多く、ほとんどの男性が20代で結婚します。

## 6. 今後の活動計画

私たちの住む大浦地区は、有明海と多良岳に抱かれ、竹崎カニとタイラギ、ミカンなど、豊かな自然、観光資源に恵まれ、その恩恵を受けて生活していますので、なんと言っても、家族の健康や太良町の自然、有明海を守るため、また、出稼ぎに行かなくても地元でみんなが働けるよう、漁協婦人部はもちろん、地域婦人会、JA女性部の方とも手をむすび、30年前の活気あふれる有明海をとりもどし、宝の海として、子や孫達に渡せるよう、漁場の保全に努めていきたいと気持ちを新たにしています。

また、地元で大量にとれた魚は市場に出しても安くしか売れないので、この魚を買取り、干物やすり身、酢漬け等に加工して付加価値をつけ、朝市や旅館の売店で販売できるようにしたいと計画しています。

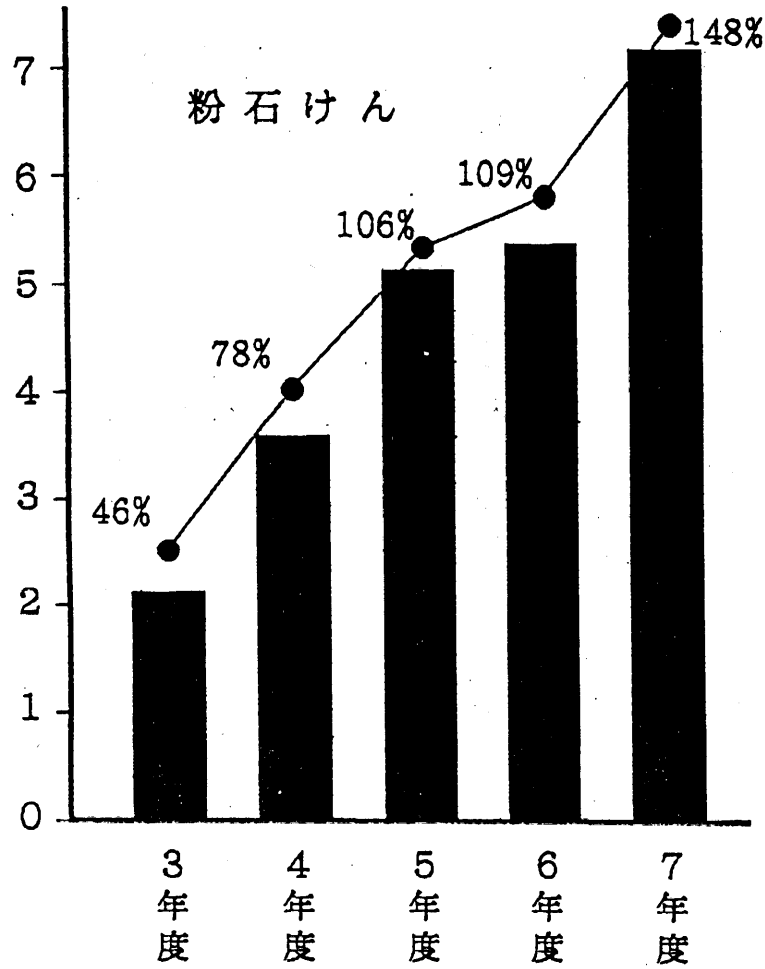
# 石けん愛用運動のお願い

私達漁協婦人部では、家族の健康を守る為、生産と生活の場である有明海や自然を守る為に石けん愛用運動を行っております。台所用合成洗剤による手あれ、主婦湿疹、洗濯用合成洗剤による子供のアトピー、赤ちゃんのおむつかぶれ、アレルギーで体がかゆい等でお悩みの方は是非体にやさしい石けんをお使い下さい。

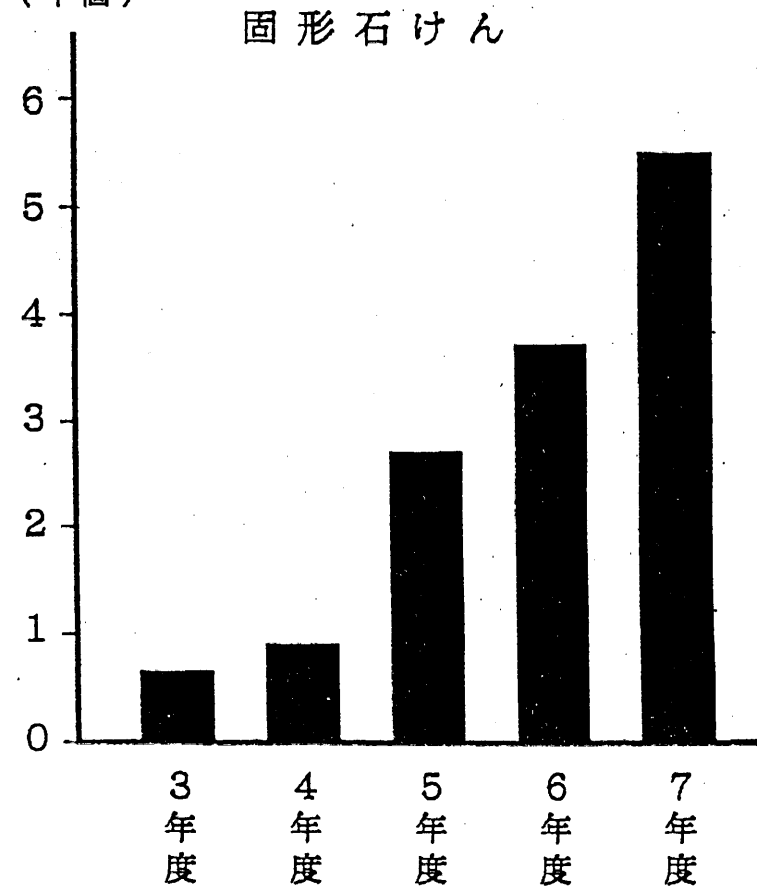
大 浦 漁 協 婦 人 部

# 石けん販売量

(千kg)

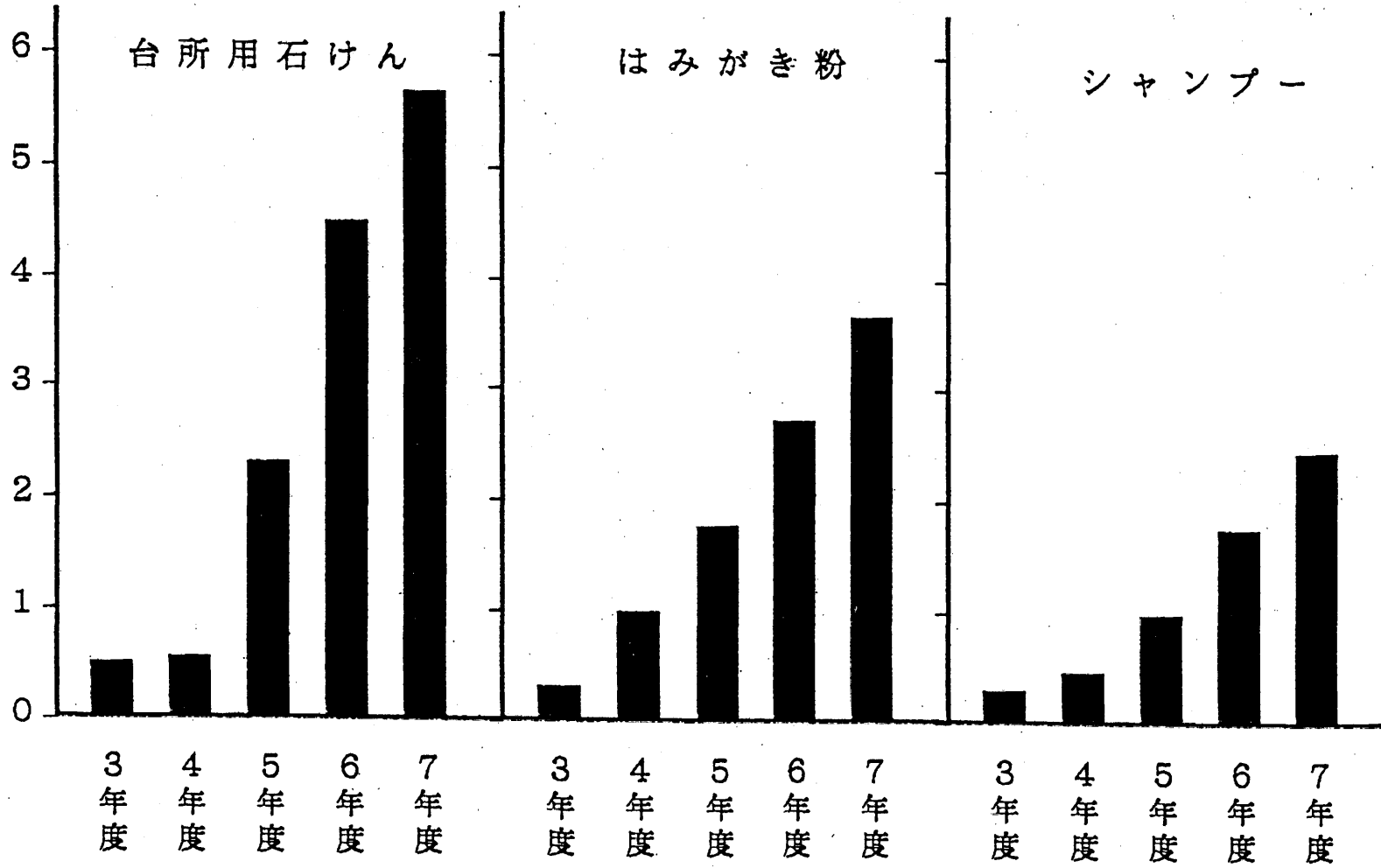


(千個)



# 石けん販売量

(百個)



## 《大浦漁協婦人部石けん普及活動項目》

1. 廃油石けんを作り配布
2. わかしお石けんの配布
3. 石けん工場視察
4. アンケート調査
5. 粉石けん使用調査
6. 太良町への要望書提出
7. 町内公共施設への固形石けんの贈呈
8. 太良町ふるさと祭りでの石けんPR及び販売
9. 地域婦人会会議への出席  
(合成洗剤追放運動のお願い)
10. 各地区での婦人部会議への出席  
主婦湿疹による手あれがなおった、花や野菜についての虫が台所用合成洗剤を薄めてかけたら死んだことなど、体験談を話し、合成洗剤の害や石けんの良さを説明し、石けん使用をお願い
11. 粉石けんネット配布

## 《石けん使用に関するアンケート調査結果》

### わかしお石けんを使用しない理由

1. 水に溶けにくい
2. 洗濯物に白い粉がつく
3. 石けんカスが残る
4. 臭いが悪い
5. 台所用石けんは、油汚れが落ちにくい
6. もらいものの合成洗剤がある
7. 値段が高い  
(合成洗剤はスーパーで安売りがある)

